

**オムロン株式会社 2015年度2Q決算
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)**
(2015年10月27日、東京)

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 今期の業績を下方修正したが、来期の見方に変化はないのか？

A: 来期の計画については、来年度の期初に改めて開示する。なお、IABは中期経営計画策定時における2016年度の社内計画を今年度中に達成する見込みであり、堅調に推移している。引き続き来年度も全社を牽引すると見ている。

Q: ボラティリティが高い事業をどのようにコントロールしていくのか？

A: IABの収益力をより強化し、ボラティリティが高い事業のリスクを吸収できるようにしていく。

Q: 自己株式の取得を行った背景は？

A: 資本効率を高め、株主還元を充実させるために、自己株式の取得を行った。実施にあたり株価水準も考慮している。なお、株主還元は充実させているが、成長投資が最優先であるという考え方は変えていない。

◆ 制御機器事業 (IAB) 関連

Q: 上期、下期ともに増収増益となる理由は？

A: 業界・エリア毎の景況感は、まだら模様であるが、IABの新しい事業戦略の成果が出つつあり、堅調な業績に繋がっている。

Q: M&Aを行った背景は？

A: 幅広い商品ラインナップをさらに強化するため、M&Aを行った。ロボットが加わったことで、人と機械の協調など、新たな事業機会を創造していく。

Q: M&Aの統合費用は上期と下期の両方に影響するのか？

A: 上期、下期ともに影響するが、アデプト社のM&Aは10月に完了しているため、下期の方が影響は大きい。

◆ ヘルスケア事業 (HCB) 関連

Q: 下期が増収増益となる理由は？

A: 新興国における健康意識の高まりが継続し、下期は増収増益を見通している。

◆ 本社直轄事業 (その他事業) 関連

Q: 環境事業を立て直す施策は？

A: 蓄電ビジネスなど、中長期的には再生可能エネルギーの需要は続くと考えており、パワコンに留まらず、総合的に事業を伸ばしていく。

Q: バックライト事業の収益性を高めるのに必要なことは？

A: 競争の軸が変わってきており、技術力をさらに強化させる必要がある。今までの高精細、薄型化に加えて、新しい要素技術を強化していく。
